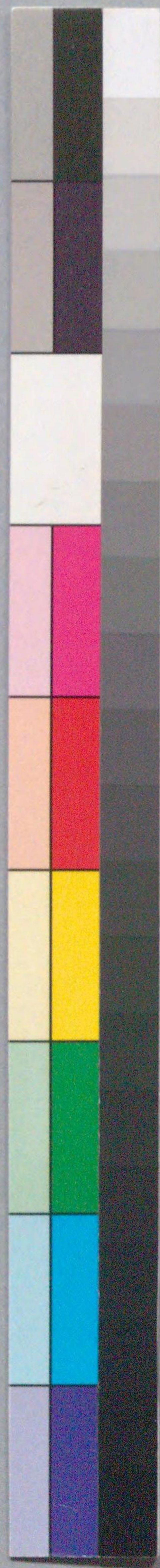




国立国会図書館 風俗粹好伝 2編 208-701

ガラス使用







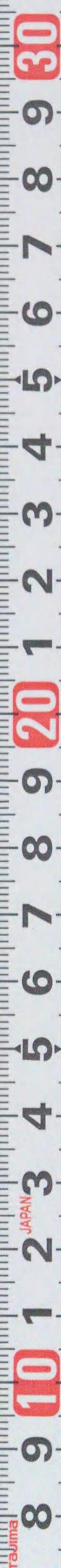


近江屋花咲



糸屋九七

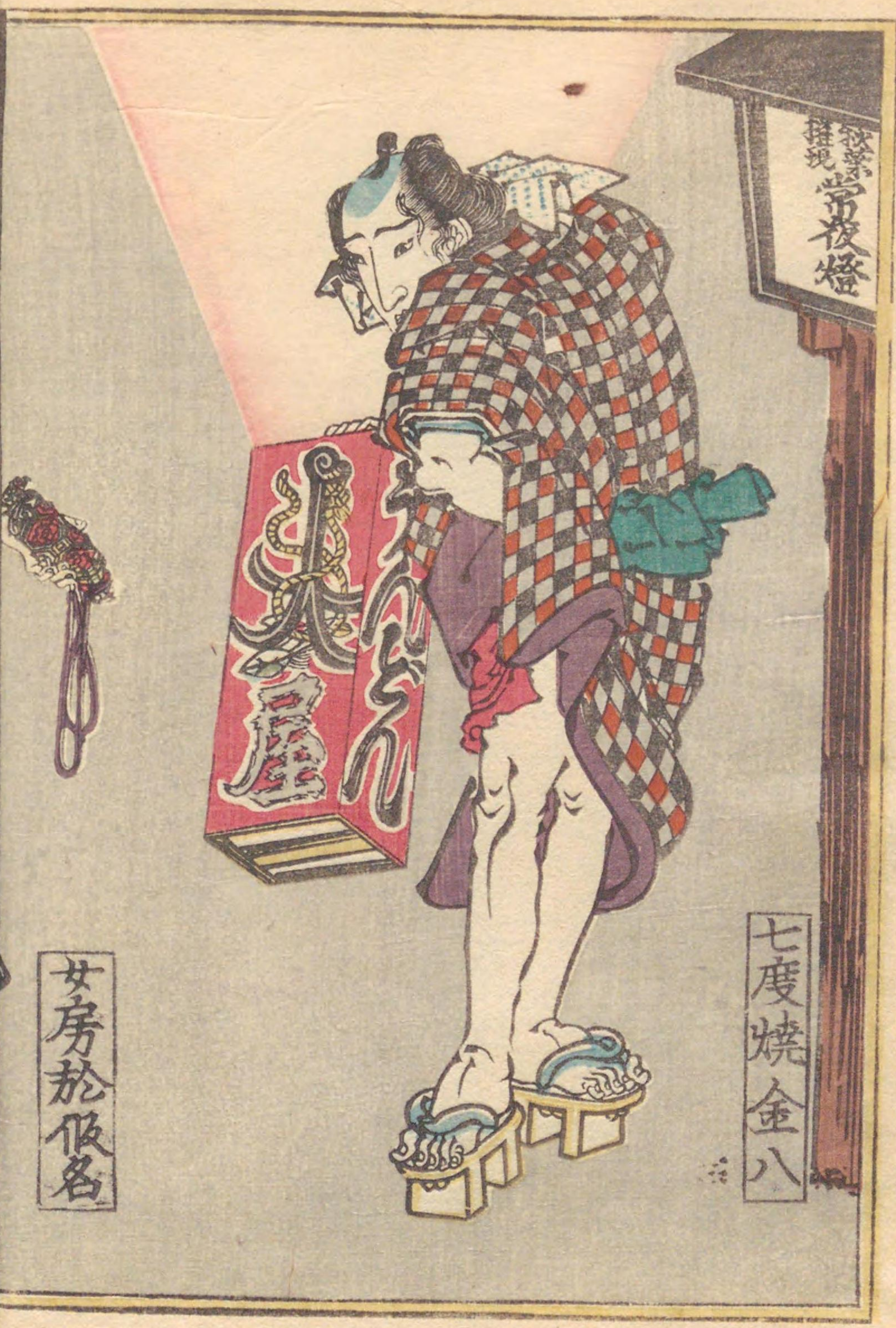
中根屋綱五郎







夜宵  
枕次多



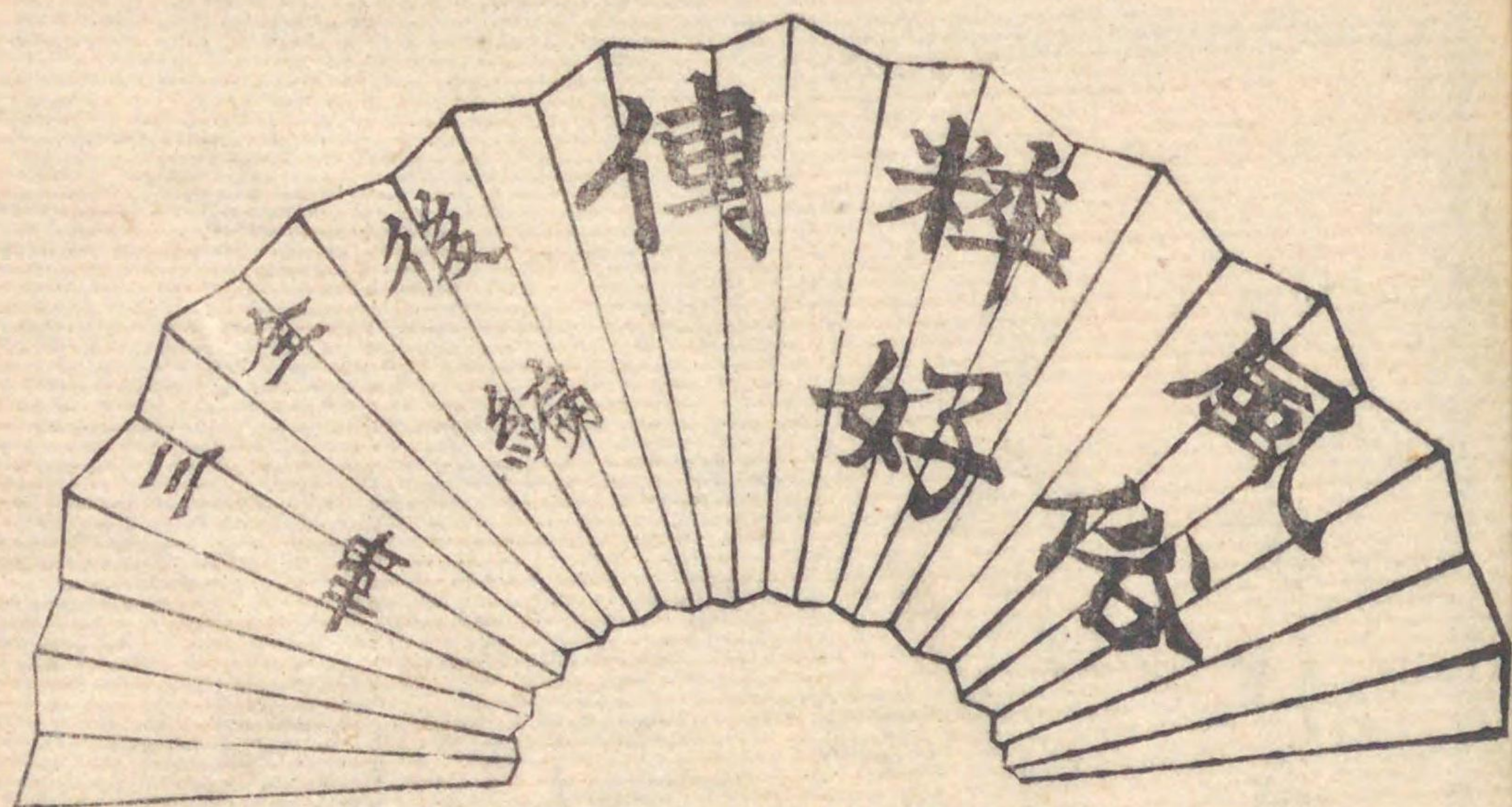
女房於假名

七度焼金八

常夜燈







乙酒と一山有  
 鼻山人誌  
 梅平  
 此のみに  
 此のみに  
 此のみに



農夫辨作



粹好傳後編目録

○上巻ハ 是ハ花ハ芳世のまも多く茶と

四角のありりり

○中巻ハ 月ハ文科のまも多く茶と

消ぬたの

○下巻ハ 聖ハ三國のまも多く茶と

以上前後合本而全六冊物

風俗粹好傳後編卷上

江戸 鼻山人著

○花ハ芳野のまも高き喻と

欲ハ万苦の本の一と。禍の根ありとかや。家の志も  
と多く焼の金ハ八ハ行の漱の村の百姓。依次多く娘かとくがのの  
うの話説をまと。且驚死且患ひ。びらハ憂死出  
しの苦界をも救ひて。親子の名を承をもせたやと  
づの世のいまと。大破の方一急きしが。道まらつつべ









らんぐ。あちえんれを納まらふ遊く。客人もあふ。  
 として士老工あのみ別もある。入り集ひて種々さあぐ  
 の風評の語りふ一個の男のうらら。あちえんれの中ニ  
 仕合せものもある者あて。らんの下の本町辺の者  
 であすが。アノ名もひ系をた七との十年余り流のり  
 系部へ系仕入しおせられけ付。管ふや管むの負えん  
 その日暮りの老の娘。母親が死去てうら。西玉次郎ト  
 中らあふるといふをえられて。俵もく。初稚子のお俊や  
 といふ。あちえんれ。後倉あぐ。はまぐ。戻つて来られ  
 たも。かうらの娘を育ててうら。あちえんれの中あちえんれ  
 中らあふ。あちえんれ。実の子のうら。あちえんれで育てられ  
 うら。あちえんれ。その娘の小系どのがえをうらのあちえんれ  
 中らあふ。男の子が誕生あちえんれ。今の若旦那。老をうら。あちえんれ  
 それゆえ七とのあちえんれ。あちえんれとむすめをふ俊が。あちえんれ  
 十四日でもあらううら。あちえんれ。あちえんれの。中指を結まどの  
 の若旦那。綱あちえんれと縁組を結されて。連れあちえんれしき





花娶とあられ馬ちあもお好勢とやらで拵列揃致も  
よ一の山花の姿の大振袖下女やちを。引はきて  
町内吹陸の出立をよとありくその日暮一のたひ  
との指のりまが。西玉須礼の娘とら。泥亀と極後さぬ下  
駈と焼味噌やど。飛遠つと女のうく。んさ又目出ふ。社  
合せなむすめもあれがあるのいと。難波備くら又一人の  
男がへる。ん。それらよん造化な娘。その仕合せお知れ  
えと。お仕合せなめのも。世の中あらあつものドヤテ。ロー

舟河原の波お場の。のどびざうまらぐ。三年をうり  
ゆるら。比り人を稼ぐ。長玉のなるまら。昏之の載乗で  
続づくあぬ面づく。積負客もり上らぬが。別合お  
あぬ若者患商賣。その女の身の人を。まやめよれヨふ  
仕合せな始末うと。あづは葉の聖天町お世帯を拵て  
片くぬが。お爺が縁母で。悪物のあつての。のあれが亭主  
を拵て。並ぐまかひら。ぞ。ぞ。離縁をさきて。それら  
かして。と。お謀の山が。的ッて。亭主の並去りの。お





















ふら 涙ぐの。かぢら 杉をんぬ。おれの甚方を。こころぎら  
ま へあつれども。知つてのさうア。お爺の懸津汁も。テッ  
キリ 母子お泣ぐ。と。突おさめ。ト押のや。い入。和う。され  
ぬ。其さ。おは。さ。う。ら。ま。を。が。上。お。列。と。是。情。し。と。並  
さ。う。の。懸。お。し。の。さ。か。ぬ。ま。い。懸。當。の。お。爺。と。れ。あ。お  
知。ず。の。破。流。り。の。が。荷。擔。し。て。ご。ん。を。目。お。會。道。も。た。れ。ぬ  
森。之。の。懸。い。年。味。の。こ。ろ。い。お。置。て。町。を。逐。天。し。と。ま。だ  
ら。く。糸。粉。お。伶。傳。し。が。お。め。か。い。る。り。も。あ。く。老。角。古。の。い

ふら 涙ぐの。かぢら 杉をんぬ。おれの甚方を。こころぎら  
ま へあつれども。知つてのさうア。お爺の懸津汁も。テッ  
キリ 母子お泣ぐ。と。突おさめ。ト押のや。い入。和う。され  
ぬ。其さ。おは。さ。う。ら。ま。を。が。上。お。列。と。是。情。し。と。並  
さ。う。の。懸。お。し。の。さ。か。ぬ。ま。い。懸。當。の。お。爺。と。れ。あ。お  
知。ず。の。破。流。り。の。が。荷。擔。し。て。ご。ん。を。目。お。會。道。も。た。れ。ぬ  
森。之。の。懸。い。年。味。の。こ。ろ。い。お。置。て。町。を。逐。天。し。と。ま。だ  
ら。く。糸。粉。お。伶。傳。し。が。お。め。か。い。る。り。も。あ。く。老。角。古。の。い

















又奈何ある。うきやあつちのあれず。あんが平理ある。  
 母あやでもあんまりむいひ相款ふ孝のとりたれても  
 命を換ぐ。一。備うら力を付ケ元気が仮名も今  
 大丈夫の候うをひく。幸も強く。兎も角もあ人のこころ  
 おおせお。大蛇おあう。び。主人まぬあ。内くびす。そのの  
 借るふ。着て斗細のお裳が。強款をあう。若も。あれ候  
 小面情づつてそれハ甚方の猪子次守。知つてハ細ぬる。ゆ  
 あれバ。何あまでもひさし。知るぬは。り。假令流あ。お裳  
 どのが。び。りやの横お車を押出。その地をを穢ぐ。女の  
 る。抱一切りのま。人。又遠くあ。のう。あ。そのあ。あ  
 び。さ。死。ぐ。あ。で。は。あ。で。せん。あ。の。あ。ね。ト。よ。あ。あ。う。お。接。授。も  
 しく。あ。り。あ。せ。う。ト。あ。う。あ。が。有。持。め。の。な。う。う。あ。今。八。も。あ。の。あ。の  
 非。で。款。を。と。る。お。氏。一。の。滑。川。の。位。所。を。密。り。お。引。お。ひ。て  
 お。仮。名。も。あ。り。とも。孫。倉。の。里。を。逐。天。あ。り。武。兵。令。汗。の。街。お  
 少。の。知。る。あ。れ。バ。あ。づ。る。を。ん。ぎ。と。ど。あ。り。う。斗。細。の  
 お。あ。の。形。とも。あ。づ。る。海。軍。の。山。の。者。と。り。う。あ。お。店。傍。に。て







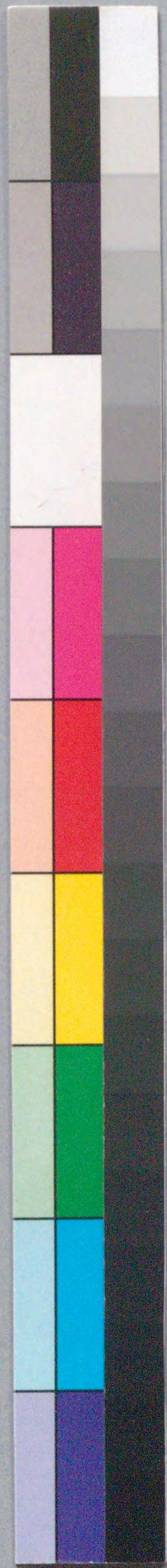












国立国会図書館

風俗粹好伝 2編 208-701



ガラス使用

